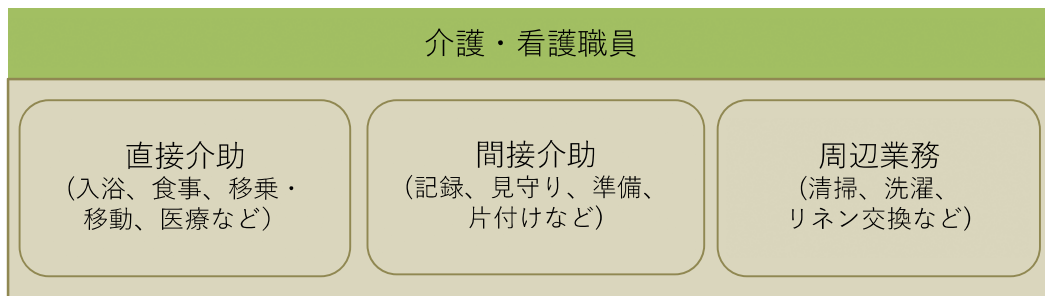


### 4-3 北九州モデルの全体像

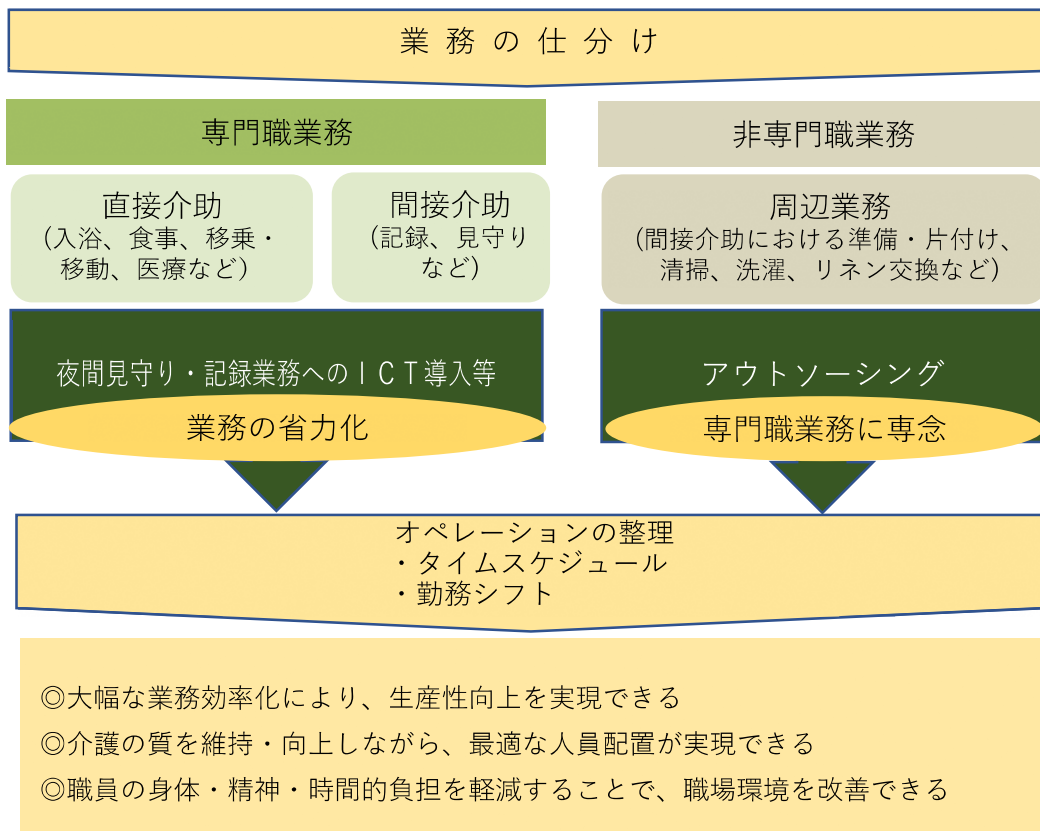
北九州モデルは、これまでの介護業務のあり方を抜本的に見直し、ICT・介護ロボット等の活用及び非専門職業業務のアウトソーシングによって、介護現場の働き方に革新をもたらします。

#### (1) 従来の働き方



- 多くの介護施設では、従来から、専門的な知識を必要としない周辺業務を含む全ての業務を、介護・看護職員が行っています。

#### (2) 北九州モデルの働き方と得られる効果



- 北九州モデルでは、まず介護施設での業務を全て洗い出し、専門職業務と非専門職業務に仕分けを行った上で、専門職業務（間接介助）の介護記録と見守りを省力化・効率化するための、センサー・ICT 機器を導入する他、希望に応じて移乗支援機器等の導入も併せて行います。
- さらに、非専門職業務である周辺業務などは、アウトソーシングを実施することで、介護・看護職員が専門職業務に専念できる環境づくりを行います。
- 並行して、ICT・介護ロボット等の活用とアウトソーシングの活用を含めた 24 時間の業務スケジュール表の作成と、業務量に見合う弾力的な人員配置を行うことで、夜勤回数の削減や職員の有給休暇の取得促進といった職場環境の改善を進めます。

### （3）北九州モデルの目指す姿

- ◎介護の質の向上による利用者 QOL の向上
- ◎雇用の安定化による介護施設の安定的運営
- ◎将来的に予測される介護人材の不足状況に備えた、持続可能な介護の実現

- 北九州モデルの目指す姿は、生産性向上により生まれる時間や余裕により、介護の質の向上及び職場環境の改善を実現し、利用者の QOL 向上を図り、施設の安定的な運営につなげることです。
- また、将来的な介護人材不足の状況に備え、早い段階から持続可能な働き方モデルを確立できます。

## 4-4 施設収益の安定化へ

北九州モデル導入のメリットは業務改善だけではありません。

北九州モデルの実践により、質の高い介護サービスを提供することで、利用者の満足度が向上するとともに、そうした取組みを外部にPRすることで、施設のブランド力の向上、さらには施設収益の安定化につながっていきます。

